



園芸療法通信 2024年1月号

発行 内閣府認証 NPO 法人日本園芸療法士協会
〒061-2276 北海道札幌市南区白川 1814 番地
TEL 011-817-2950 FAX 011-817-8007

御挨拶

あけましておめでとうございます。

辰年を迎え、令和6年が出発しました。令和5年を振り返りますと、触法の人々のみのり寮を、6カ月もかかり完成させたことが第一に思い浮かびます。犯罪を犯した人々に対しての事業ということで、銀行からの借入が難航し、内装工事の費用捻出に苦労するといった一幕もありました。世間一般の人々が無言でいる重圧も感じました。しかし法人の売上もあり、協力してくれる方々の尽力もあり、何とか乗り越えて完成しました。

植物環境を設定されている場所で人間力がつき、回復していく姿を春には見られることと思います。全法人が、障害をもつ人々の更生であります。いつも「される人」から、「手を差し伸べる人」になることは意義が深いと思います。一歩前進です。

とても楽しみな年になることを願って、また、皆様も運を引き寄せ、幸せが舞込む年であります様願ってやみません。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

令和6年 元旦 理事長 瀬山 和子

～みのり寮の完成について～

緑友会 津崎 秀樹

昨年以來、整備を進めておりました札幌市南区白川の農場内にある「みのり寮」が完成しました。昭和57年に建てられた当時の職員宿舎の電気、ガス、水道のライフラインを復活させ、部屋の内装や浴室などをリニューアルしたものです。鉄筋3階建てで3LDKの居室が6室あり最大18人の収容ができます。

今、我が国においては、「住む」「働く」といった生活基盤が整わないままに再犯を繰り返す人の社会復帰が大きな課題となっています。このような元犯罪者や生活困窮者などに対して住居と就労の機会を提供して「生きる力」を取り戻してもらう「再生の場」にしていきたいと思っています。今月初旬、全国の刑務所に施設情報を発信して入所第一号を心待ちにしているところです。

白川寮 みのり



～令和5年度活動報告～

令和6年を迎え、皆様お元気な様子と感じております。

さて、令和5年度の経済行為及び出来事については、スモール経済を目指してまいりました。外国の戦争もあり、家庭経済を中心に食材の製造単価を常に考える日々でした。理事長の心は走って仕事をするべしと実行しました。

- 1月 ・各店舗の目的は家庭経済を助けることと設定。仕入が始まりました。
キャベツ・レタス・キュウリ、トマトなどのサラダ野菜は150円単価とする方針としました。
- 2月 ・触法の障がい者でもある人々の自立準備グループホームの設置計画を立案しました。
- 3月 ・法人の年度末理事会を実施しました。
・緑友会にて、「三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金」の助成をいただくことができました。
- 4月 ・雪が融け、畑おこしが始まりました。
- 5月 ・地元高校放送部の高文連大会用の昼食として弁当を仕出ししました。
・「みのり寮」の電気工事が始まりました。
- 6月 ・決算処理、総会、理事会、所轄庁への前年度の報告・登記などを行いました。
・園芸療法スクーリングを実施しました。
・商工会議所にて異業種交流会に参加しました。
- 7月 ・お盆の花の仕入が始まりました。昨季整備した花保管用冷蔵設備が大いに役立ちました。
- 8月 ・お盆は花が良く売れ、一日800束が完売。総数としては約4万本が完売となりました。
・2回目のスクーリングを実施しました。
・商工会議所主催の商談会に参加し、ホテルや卸業者などと商談を行いました。
- 9月 ・お彼岸の仕入れ準備、12月のおせちの仕入が始まりました。
・今年3回目のスクーリングを実施しました。
- 10月 ・高文連放送部大会の全道大会にて昼食の仕出しを行いました。
・新千歳空港売店のえんれいしゃより、当協会のクッキーを仕入・販売したいとお話がありました。
- 11月 ・STVより取材の申し込みがありました。今回は仕入から製造・販売までの流れを一通り紹介するというので、放送時間は15分、取材も2週間ほどの間に3回と長期にわたるものでした。
・正園芸療法士検定試験を実施しました。本年の受験者、合格者はともに2名でした。
- 12月 ・地元町内会や、小学校の支援学級の要請を受けて、しめ飾り製造体験・講習会を開催しました。
・パッケージを新調、JANコードの取得などを経て、新千歳空港国内線ターミナルビル2F、「1st HOKKAIDO」に当協会のクッキーを納品いたしました。
・どさんこワイドで当協会が紹介されました。

Youtubeでも内容を視聴可能です。

(URL: <https://www.youtube.com/watch?v=zQgGNynJr1U>)



: QRコード



150円野菜は順調に売れ、12月には売り上げが少ない店舗も2倍になりました。店舗売上は月商1000万円以上となりました。障害をもつ人々の商いを研究した結果気づいたこととして、①製造の身体能力は低い、技術を3つの段階に絞ってトレーニングすれば成果を上げることが出来ます。②店頭でも職業リハビリ7大用語と行動が並行して行えば、実に立派な態度で対応出来ます。③商品を間に挟んで接客する形にすれば、利用者も落ち着いて対話ができることが出来ます。

以上の3要素が功を奏し、障がい者のリハビリ店舗は軌道に乗ったと考えられます。今後は、いかに進歩した高品質な商品が作れるか、「障がい者のお店」と言われたいことを願っています。

更に、北海道空港グループの株式会社えんれいしゃ様のご依頼により、12月4日から当協会のクッキーが販売されています。新千歳から日本中に、そして世界中に広がることも視野に入れて、クッキーのデザイン開発に力を注ごうと思います。

どさんこワイドは、当協会のピアハープがなぜあいかの秘密に迫るといった内容の特番でした。反響は大きく、放送直後からひっきりなしに電話が鳴り響き、売上が倍増する店舗も出ていました。私たちはいつもの行動ですが、心を揺さぶられた視聴者の方々が多かったと考えられます。

～三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金 緑友会～

昨年12月に応募しました卓上ミキサーの整備事業について、助成決定の通知がありました。緑友会の大空作業所では、おやき以外の商品開発が課題となっておりましたが、そのための機材購入が難航しておりました。

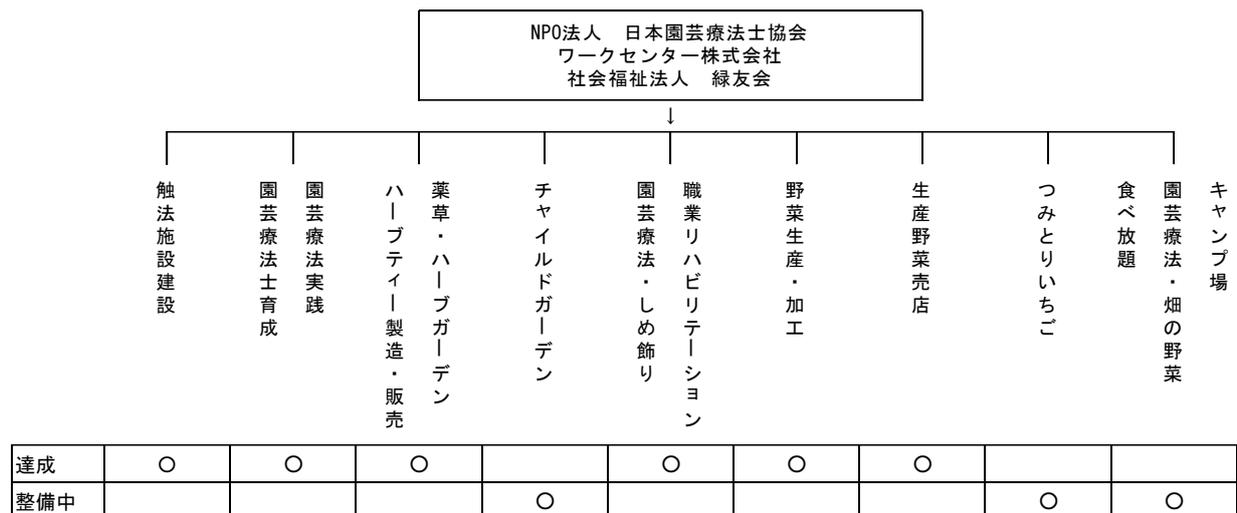
前々より整備を検討していた卓上ミキサーについて赤い羽根の助成事業に応募しましたところ、赤い羽根に寄託されております三菱電機株式会社様の「三菱電機 SOCIO-ROOTS 基金」の助成対象として選ばれました。

このミキサーを導入することで、おやきだけでなく、洋菓子の生地やクリームなども作れるようになり、製品の幅が大きく広がっていくかと思えます。関係者の皆様には改めて感謝申し上げます。



～弱者再生環境の共生ワーキング 進捗～

一昨年から本格始動した共生ワーキングの進捗状況です。植物の環境の中において、人間を環境に欠かせない人々して捉え、植物環境の中で人間が心身ともに豊かになっていく構成です。もちろん、職業リハビリテーションも含まれています。触法施設も含まれます。



園芸療法士育成については全国から応募があり、一年のレポート提出と5日間の実習があります。植物がある季節に事業をしています。多くは本州からの生徒さんとなっています。今年の動きとしてはやはり触法施設であるみのり寮の完成が大きいものとなっています。園芸療法士育成については、今後はオンラインでの講義や実習を強化し、遠隔での育成に注力していきたいと考えています。また、海外との連携も検討しているところです。